～別院だより～
モダン寺新聞
第16号
発行所
浄土真宗本願寺派　本願寺神戸別院
〒650-0011
神戸市中央区下山手通八丁目一番一号
TEL 078-341-5949

一口法話　「欲望を捨てずして・・・」

「欲望を捨てなくてもいいですよ」と言ったら驚かれるでしょうか？

「仏教は欲望を否定するものではないのですか？」と聞こえてきそうですが、欲望を全否定するのが仏教ではありません。「欲望」とはまさに生きてゆく力ですから、欲望を断ち切ってしまっては、生きてゆくことができません。仏教が示していることは、この欲望の向かう先、方向性であり、制御することなのです。

「欲望」は本来「自分自身を生かす力」なのでありますが、その力が逆に自分を悩ます苦しめるはたらきに変わるという矛盾を含んでいます。こうした欲望の中の不純な部分を「煩悩」と呼んで排除していき、純粋に自分を生かす欲望を「願い」と呼んで尊んできたのです。

ですから、ただ欲望を求めてよいとは言いません。常に真実の教えを聞き、我が身を振り返るところから起こる欲望は、野放しの欲望とは違った方向性が得られてくるのです。

飽食の時代と言われて久しくなります。おいしいものを求めるということは確かに人生の楽しみであることに間違いはありません。しかし、同時にあまりにそれを追い求めると楽しいはずのグルメ思考がかえって重荷になります。次から次へと行きたいところが増えてきますし、食べたいものも増えてきます。楽しみの追求がかえって欲求不満をもたらし心を苦しめるのです。欲望を満足させることは結構ですが、それだけが人生の目的になってしまっては実は苦しみを増大させるだけであります。つまりは両極端にならないバランス感覚が大切なのです。このことを古来、仏教では、「少欲知足」と言う言葉で表現してきました。少しの欲でもって足ることを知る。「欲望を捨てなさい」ではなく、また、「貪欲になっていい」ということでもないのです。少しの欲で充分に足ることを知るということが最も大切だ、という意味であります。

「少欲知足」を心得るとは、欲望の虜になるのではなく、また、欲望を捨て去って行くのでもなく欲望を持ち続けたままで、それを適切に制御できるようになることです。それには常に自らを省みなければなりません。それがみ教えを聞くということであります。

播磨東組　妙覚寺　森田直道師

第六回
「仏教 ここが知りたい」

お釈迦さまのお話

「ダンミカの怒り」

あるお寺で、沢山の若いお坊さんが修行に励んでおりました。そのなかに、頭が良く、よくはたらき弁舌も巧みで、寺の仕事もてきぱきとこなし、戒律もきちんと守るダンミカという僧がいました。そのため、他の僧たちの落度やふしだらさが眼について、それを見過ごすことができませんでした。

そのうちに、自分を正しいとする思い上がりがそうさせたのか、生来の短気がそうさせたのか、仲間の僧侶たちに対して、悪態をつくようになってしまいました。

そのことが因（もと）で次第にお寺から僧侶の数が減っていきました。そのお寺の様子を見ていた信者が、原因はダンミカであることを知り、憤怒してダンミカをお寺から追い出しました。ダンミカは、自分は間違ったことをしていないのに、と思いながらもお寺を後にしました。

そしてダンミカは、別のお寺へ移り住むようになりましたが、そのお寺でも同じようなことを繰り返し、また追い出されることになりました。次のお寺でもそのまた次のお寺でも同じことを繰り返しました。

行き場のなくなったダンミカは、霊鷲山（りょうじゅせん）のお釈迦さまのもとへ訪ねていきました。霊鷲山では、多くの修行僧たちが、集まっていました。やがて、姿を現されたお釈迦さまが、みんなをゆっくり見回さると、隅のほうに一人しょんぼりしているダンミカに眼をやられ、静かに声をかけられました。

「どうしてここへやってきたのですか。」

ダンミカは、今までの自分の行動、いきさつをお釈迦さまに話しました。お釈迦さまは、既にその事情を察知しておられました。

「ダンミカよ、おまえは自分でまいた種を育て、おまえ自身が刈り取ったに過ぎない。他のものを追い出したがために、おまえ自身もまた追い出されここへ来た。」

「世尊よ、わたしは間違いをしておりません。誰よりも勤勉によく働きました。ただ仲間の僧たちがあまりに愚かなので、カッとしてどなりつけただけです。あの連中は、修行の厳しさに負けたのです。私からではなく、修行から逃げ出したのです。」ダンミカは懸命に弁明しました。

お釈迦さまは、やさしく話しはじめました。

「ダンミカよ、おまえの慢心と短気さが多くの修行僧たちを寺から追い出した。彼らの悲しさと悔しさを思いやるがよい。そしてその慢心と短気さが、おまえ自身をも寺から追い出す結果になった。怒りは怒りによって静めることはできない。たとえ、おまえの主張が正しかったとしても、また相手にいかなる落度があったとしても、怒りによって直せるものではない。その筋が通ることはないし、相手に伝わることもない。」

じゅんじゅんと説くお釈迦さまの言葉にようやくダンミカの心の嵐は静まりモヤが晴れてゆくのでした。

「ダンミカよ、しばらく霊鷲山で修行するがよい。」

お釈迦さまは威儀を正し、全山の修行僧たちに向きを変えて申されました。

「さあ、朝の説法を始めよう」

このお話のダンミカは、私たち自身の姿ではないでしょうか。私たちは、日々の生活の中で様々なことで**怒り**を覚えてしまいます。自分は正しい、といった**自己中心的な考えかた**で判断してしまっているからではないでしょうか。

もう一度、お釈迦さまの言葉を味わせていただきましょう。

つづく

◇◇◇ 神戸別院行事レポート ◇◇◇

モダン寺子ども会花まつり

若葉が鮮やかに感じる四月二十六日（土）、別院本堂にて、お釈迦様のご誕生をお祝いする「花まつり」が土曜子ども会を中心に行われました。お勤めの後、井上輪番のお話があり、引き続き、皆で灌仏（お釈迦様の誕生仏に甘茶をかけること）をしました。

新学期を迎え、新六年生の三人が新入生の子ども達の手を引く姿を見て、み仏の教えの中、すくすくと成長していることに感動しました。モダン寺土曜子ども会に楽しいお友達が沢山集まってくれることをお待ちしております。

『降誕会法要』

平成十五年五月十八日（日）に、宗祖親鸞聖人の誕生をお祝いする「降誕会法要」が勤修されました。午後一時より別院前広場の親鸞聖人銅像前、引き続き三階本堂にてお勤めをいたしました。お勤めの後、和歌山からきていただいた、高橋厚生師のお話を聴聞させていただきました。

我々が今日、真実のみ教えに出会わせていただいていることは、親鸞聖人のご誕生があったからこそであります。親鸞聖人のご誕生をお祝いすると共に、感謝の気持ちを込めて行う法要が「降誕会」であります。

ちなみに、親鸞聖人の誕生日は旧暦では四月一日、新暦では五月二十一日です。

おもちつき

降誕会二日前の五月十六日（金）には、お供物のお餅をつくるため別院前の広場で「おもちつき」を行いました。仏教婦人会の方々のご協力をいただき、和やかな雰囲気の中、楽しく過ごさせていただきました。

今日では、できあがった物を買ったり、機械で簡単に作ったりと容易に手に入るお餅ですが、昔は、これほどの苦労をしてやっと口に運ぶことができたということを思うと、我々が日々感謝を忘れてしまっていることに改めて気付かされた「おもちつき」になりました。

勝如上人一周忌法要

去る、六月十三日（金）に本願寺前御門主勝如上人の一周忌法要を厳修いたしました。宗門の内外を問わず広くご化導された上人のご遺徳とご生涯を偲ぶ、日頃の我々の教化伝道に対する姿勢を深く考えさせられる法要となりました。

「永代経法要」

平成十五年六月十五・十六日、「永代経法要」が勤修されました。また、十五日の十一時三十分より永代経進納者をお迎えしての『永代経開闢法要』を勤修いたしました。別院本堂の左余間に法名軸を荘厳し、今は亡き先人のご遺徳を偲ぶと共に、神戸市北区願生寺の柳川眞隆師のご法話をお聴聞させていただきました。

永代経とは、永代にわたって、お寺の護持発展を願う法要であります。そして、先人からいただいた貴重なご縁として、仏法に出会わせていただく法要であります。

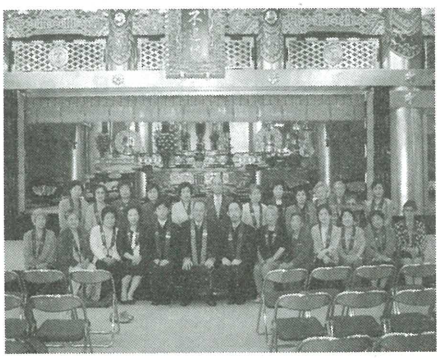
別院仏教婦人会研修旅行

五月三十日（金）に親睦を兼ね、本願寺名古屋別院（お西）・大谷派名古屋別院（お東）の両別院に総勢二十七名で参拝しました。

名古屋は、もともと大谷派（お東）の多い土地柄で、その影響を受けてか、お西の別院よりお東の別院の方が、規模が大きいものでした。一方お西の別院は、去年改修工事を終えたばかりで、内陣お荘厳の輝きはすばらしいものでした。

心配していた台風の影響も受けることなく、有意義な旅行になりました。

この旅行は、仏教婦人会を中心としてどなたでも気軽にご参加いただける旅行です。今後も継続していきますので皆様のご参加お待ちしています。



仏婦旅行、名古屋別院（西）にて

別院仏教壮年会

毎月十六日午前十時より別院内にて仏教壮年会の『集い会』を開催しております。この会では、仏教・真宗の教えに関心や疑問をお持ちの方、行事や法要に参加してみたい方、門信徒同士お互いの仲を深めていきたいとお考えの方など、みなさん一緒になって話し合い法座等を行っております。研修会・親睦会などを通じて共に学びましょう！どなた様もお気軽にご参加ください。

別院行事予定

七月

第一土曜講座
五日（土）午後一時三十分
講師　龍谷大学名誉教授　中垣昌美師
講題　「理解あるふれあい」

別院仏教婦人会定例法座
七日（月）午後一時三十分
講師　神戸湊組　教覚寺　別所法宣師
講題　「蓮（はちす）の座」

別院常例法座
十五日（火）・十六日（水）　午後一時三十分
講師　加古川組　正願寺　井上朋義師
講題　「本願力に遇ひぬれば」

八月

モダン寺暁天講座
一日（金）～三日（日）　午前七時
一日　阪神南組　浄元寺　講師　宏林晃信師　講題　「三世の迷いと救い」
二日　揖龍東組　源徳寺　講師　和田宏之師　講題　「出遇いの中のよろこび」
三日　加古川組　金照寺　講師　宰務清子師　講題　「あみださま大好き！」

第一土曜講座
二日（土）　午後一時三十分
講師　得度習礼・教師教習講師　櫻井瑞彦師
講題　「いのちの現在　～一冊の絵本から～」

盂蘭盆会
十五日（金）　午後一時三十分
講師　本願寺神戸別院　輪番　井上博雄師
講題　「信心獲得すといふは」

九月

第一土曜講座
六日（土）午後一時三十分
講師　神戸西組　信行寺　米田睦雄師
講題　「未定」

別院仏教婦人会定例法座
七日（月）午後一時三十分
講師　高砂組　善行寺　網干善一郎師
講題　「いつもここから生きて往く」

別院常例法座
十五日（月）・十六日（火）　午後一時三十分
講師　京都教区　上東組　明福寺　飯島憲彬師
講題　「他力といのり」

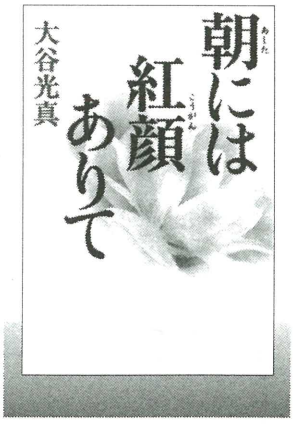
秋季彼岸会
二十二日（月）～二十四日（水）　午後一時三十分
講師　東北教区　山形組　常得寺　中央基幹運動推進相談員　前田利泉師
講題　「浄土真宗」

ホームページ

神戸別院（モダン寺）のあゆみ、また、兵庫教区教務所の活動計画等を紹介しています。
ぜひ、ご覧になってみて下さい。
http://www.modan-t.or.jp

図書紹介

西本願寺第二十四代門主が初めて語る
生きること老いること
そして死ぬこと



角川書店　¥一、二六〇円（税込）

法務日誌

梅雨の季節となりました。▼突然ですが、「良い天気、悪い天気」というのをよく耳にします。一般的に、晴れは良い、雨は悪いとなっています。▼しかし、農家の方にとっては、『恵みの雨』となります。また、日照りが続くようになったらどうでしょう。晴れなくていいから雨が降って欲しいと思う様になり、逆に晴れが悪い天気になるのではないでしょうか。▼結局、我々は、自己中心的な考えで物事を判断しているということを、梅雨の雨から教えられることであります。